2025 年度
廃棄物資源循環学会 春の研究討論会参加案内

2025年度「春の研究討論会」は、2025年5月29日（木）、30日（金）川崎市産業振興会館で開催します。現在、廃棄物を取り巻く環境が大きく変化する流れの中で、対象とする分野も広がり、それに伴い廃棄物資源循環学会に設置されている研究部会数も 14 まで増え、部会活動が活発化しています。本学会では、研究部会活動の促進および支援の観点から、部会活動の発表の場を提供することを目的として「春の研究討論会」を開催しています。それぞれの分野における最新の話題や興味深い話題に対して討論を行うことにより、より一層社会と連携し循環型社会の形成や廃棄物問題の解決を目指していきます。

日常生活から社会の生産活動に至る廃棄物の諸問題や資源循環に纏わるテーマについて、研究機関、市民、企業、行政のさまざまな立場からの研究討論を通じて理解を深めたいと思います。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

なお、最新情報は学会ホームページ（https://www.jsmcwm.or.jp）にてご確認ください。

- 主　　催：一般社団法人 廃棄物資源循環学会
- 開 催 日：2025年５月 29 日(木) 13:30～18:00
  2025年5 月30 日（金）10:00～11:30
- 開催場所：川崎市産業振興会館　4 階展示場および 9 階セミナー室
  住所　　〒212-0013　神奈川県川崎市幸区堀川町 66-20
  電話　　044-548-4111
  最寄駅　JR 川崎駅西口　徒歩 8 分、京急川崎駅　徒歩 7 分

- 定　員
  展示場は１２６名、セミナー室会場は９０名（事前申込制）
  ＊各セッションに関して、同時にZoom配信を行います。

【会場参加者へのお願い】
・発熱・倦怠感・胸部不快、咳・くしゃみ・鼻水等の症状がある場合は来場せずオンラインで参加して下さい。

- 参加申込方法
  学会ホームページ（http://www.jsmcwm.or.jp/）からお申込みください。

- 参加費：無料

● プログラム：

5月29日(木)

お昼（11:30～13:00）：4階展示場でランチセッション

会場	11:30～13:00	午後(13:30～15:30)	午後(16:00～18:00)
展示場 （4階） 126名	ランチセッション 企画運営委員会 **～“あの先生”と気楽に話せる交流会～**	セミナーA【Zoom配信】 廃棄物計画研究部会 **「資源循環における民間ルートの可能性（１）」**	セミナーC【Zoom配信】 災害廃棄物研究部会 **「災害廃棄物発生量推計の研究動向」**
セミナー室 （9階） 90名		セミナーB【Zoom配信】 廃棄物資源循環学会会員有志 **「廃棄物処理分野における知的創造理論を利用したODAプロジェクトの実施および数理工学的アプローチによるプロジェクトの解析について」**	

5月30日(金)

会場	午前（10:00～11:30）	午後(13:00～16:30)
展示場 （4階） 126名	セミナーD【Zoom配信】 廃棄物計画研究部会 **「資源循環における民間ルートの可能性（２）」**	学会賞授賞式 総会 受賞講演
セミナー室 （9階） 90名	セミナーE 【Zoom配信】 埋立処理処分研究部会 **「『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』改訂版の公開について」**	

ランチセッション～“あの先生”と気楽に話せる交流会～

（企画運営委員会）

当学会では、昨年好評だったランチ交流会を今回も企画しました。サーキュラーエコノミーや脱炭素、災害廃棄物、リサイクルなど各分野のフィールドでご活躍されている“あの先生”と、各自持参のランチを食べながら気楽に話せる機会です。“あの先生”のお話からスタートして、参加者の皆さんが思っている疑問や意見に寄り添いながら、交流を深めていきます。シャイなあなたでも、まずは聞くだけでもOK。明るくて楽しい“あの先生”とお近づきになれるチャンスかも！

※　事前申し込み（交流テーマの希望をお聞きします）を優先します。ランチ持参でご参加ください。

プログラム：（敬称略）
1．全体企画主旨説明　10分
2．各グループで交流　75分
“あの先生”方と主な交流テーマ（予定）
① 脱炭素
平井康宏（京都大学）×　井伊亮太（パシフィックコンサルタンツ（株））
② 地域共生
石井一英（北海道大学）×　高橋史武（東京科学大学）
③ 資源循環
田畑智博（神戸大学）×　藤山淳史（北九州市立大学）
④ 環境教育・市民参加
浅利美鈴（総合地球環境学研究所）×　森朋子（立教大学）

3．参加の御礼　5分

セミナーA　資源循環における民間ルートの可能性（１）
セミナーD　資源循環における民間ルートの可能性（２）

（廃棄物計画研究部会）

概要：2024年8月に策定された第５次循環計画では「循環経済」が基調とされている。また、地域の循環経済を構築する上で、人口減にあえぐ自治体の負担軽減が必要であり、その一方、策として民間ルートでの資源化および廃棄物収集・適正処理の拡大も検討する必要がある。このような背景から、当部会では「資源循環における民間ルートの可能性」と題するセミナーを企画した。同セミナーでは、民間ルートの回収・資源化・廃棄物管理を実施している事業者に事例を報告いただくとともに、第５次循環計画を踏まえた一廃処理の現状と今後について環境省の担当者に解説いただく。また、それらの講演に続き、講演者と当部会員によるパネルディスカッションを実施し、フロアーの参加者からも意見をいただく。本セミナーを通じ、民間ルートを活用した持続的な一廃管理を含む循環経済の実現に向けたカギを見出すことを期待している。なお、本セミナーは、5/29（木）午後（セミナーA）と5/30（金）午前（セミナーD）の2部構成で開催する。

プログラム：（敬称略）
＜第1部：セミナーA「資源循環における民間ルートの可能性（１）」＞
１．代表挨拶（（国研）国立環境研究所　稲葉陸太）
２．計画部会の活動紹介（同上）
３．講演１：「循環計画を踏まえた一般廃棄物処理の現状と今後（仮）」（環境省　環境再生・資源循環局　三浦弘靖）
４．講演２：「あべのハルカスにおけるディスポーザ+メタン発酵により運搬車両台数削減等の取組（仮）」（近鉄不動産（株）アセット事業本部　西畑宏昭）
５．パネルディスカッション（１）
・司会：石井一英（北海道大学）
・登壇：三浦弘靖、西畑宏昭、齋藤優子（東北大学）、稲葉陸太
６．閉会挨拶（石井一英）
※総合司会（齋藤優子）

＜第２部：セミナーD「資源循環における民間ルートの可能性（２）」＞
１．代表挨拶（稲葉陸太）
２．講演１「計画部会R4～6年度活動報告と民間ルート構築に関する問題提起」（石井一英）
３．講演２：「札幌を中心とした２４時間の無人資源回収施設＝「じゅんかんコンビニ」の展開（仮）」
（（株）マテック　常務取締役　柄澤秀昌）
４．パネルディスカッション（２）
・司会：稲葉陸太
・登壇：柄澤秀昌、石井一英、齋藤優子
５．閉会挨拶（齋藤優子）
※総合司会（稲葉陸太）

セミナーB 廃棄物処理分野における知的創造理論を利用したODAプロジェクトの実施と数理工学的アプローチによるプロジェクトの評価

（廃棄物資源循環学会員有志）

概要：わが国における政府開発援助プロジェクト（ODAプロジェクト）は、廃棄物処理分野のみならず、現地の制度や社会に適応しながら自助努力を行いつつ、自立発展をさせるような支援に取り組んでいる。その自立発展の内容については、地域によって社会慣習の違いがあり、さまざまな工夫を重ねてきている。
一橋大学の野中郁次郎名誉教授にて、「日本型開発協力とソーシャルイノベーション」が出版され、この著書ではこれまでに実施された7つのODAプロジェクトを取りあげて、なぜプロジェクトが成功につながったのか、知識創造理論による観点から詳細な分析がなされている。今回、バングラデッシュ国の廃棄物収集改善事業を通じて知識創造理論に基づくプロジェクトがどのように構成されたのか、プロジェクトに携わってきた政策研究大学院大学の松永正英氏より話題提供いただく。
また、同じくプロジェクトに携わった石井明男氏より、ダッカ市における廃棄物収集改善事業を対象に、収集改善の取り組みへの消極派が大多数を占めた中で賛成派が増加する状態（自立発展）にどのように至ったのかを技術的に紐解くために数理工学的アプローチによりプロジェクトの解析を行い、どのような結果が得られたのか、そしてその数理工学的な評価手法を話題提供いただく。話題提供の後、廃棄物処理分野における知識創造をどのように進めればよいか、数理工学的アプローチの解析・評価手法に関してなど、情報共有および意見交換を参加者で行う予定である。

プログラム
1.はじめに
2.知識創造理論に基づくODAプロジェクトの実施
・バングラデシュ国廃棄物収集改善事業を通じた住民の自己組織化による取組状態の変化
・バングラデシュでのダッカ市廃棄物処理改善の自助努力による自立発展につなげた支援の内容（バングラデシュで開催されたセミナーの概要）
3.数理工学的アプローチによるプロジェクト解析
・エントロピーによるプロジェクトの評価
・プロジェクトに影響を与えるパラメータについて
・ゆらぎを発生させる要因、活動例について
4.情報共有、意見交換等

〈発表者(予定、調整中)〉
・長岡耕平（タクマ）→1.および2.の一部
・松永正英（政策研究大学院大学）→2.
・石井明男（東洋大学大学院）→1.および3.

セミナーC　災害廃棄物発生量の推計と研究動向

（災害廃棄物研究部会）

概要：災害廃棄物は、災害の種類と被害の甚大さ、地域性等の要因から、発生量、発生する廃棄物の種類は大きく異なり、画一的な対応では適正処理としては不十分なケースが多く見受けられます。一方、学術論文においては、地域特性や被災規模等に応じて緻密な検討が進められているものの、そのまま現場で活用されることは難しく、今後の災害廃棄物研究のあり方を整理する必要があると考えられます。
2024年度に行政研究部会と共催で「災害廃棄物研究の動向と今後の展開」と題してセミナーを開催し、災害廃棄物発生量推計研究に対する要望を変わらず多くいただきました。それを踏まえ、今年度は「災害廃棄物発生量推計の研究動向」と題するセミナーを開催します。当該研究に関する最新動向を共有し、研究成果の社会実装に向けた取り組み、最適な災害廃棄物処理支援のあり方について参加者の皆様と検討いたします。

プログラム：　（敬称略）　司会：鈴木 慎也（福岡大学）

■開会挨拶 10分

■話題提供1　20分　「(仮題)災害廃棄物の発生量推計：実務と研究の現状」　多島良(国立環境研究所)
■話題提供2　20分　「(仮題)災害廃棄物処理のシステム評価：発生量推計によってできること」　田畑智博（神戸大学)
■話題提供3　20分　「(仮題)災害廃棄物発生量シミュレーション」　坂井健一（パシフィックコンサルタンツ）

■パネルディスカッション 40分　「研究動向の整理と今後の展開」
・コーディネーター 浅利美鈴（総合地球環境学研究所）
・パネリスト
　　多島良(国立環境研究所)
　　田畑智博（神戸大学)
　　坂井健一（パシフィックコンサルタンツ）

■閉会挨拶　10分

セミナーE　『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』改訂版の公開

（埋立処理処分研究部会）

概要：
　埋立処理処分研究部会より2002年3月に成果として公表した「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」(当時代表:田中信壽)は、1998年6月に施行された「最終処分場廃止基準」について、考え方、調査測定、評価判断の考察と提案を示したものであり、廃止基準適合を判断する際に参考となる資料として活用されている。
　それから20年以上が経過し、最終処分場の調査研究を通じて、新たに得られた知見に基づいて『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』を改訂するため、部会内に設置した数値埋立工学ワーキンググループのメンバーを中心に改訂作業を行い、その経過について2019年から、春の研究討論会および研究発表会において、その検討経過を示すとともに、最終処分場の維持管理と廃止基準に関連して、「埋立物・構造・管理」、「測定法」、「判断基準」、「跡地利用」などのキーワードを中心に意見交換を行なってきた。
　本セミナーでは、2025年3月に公開した『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』2024年度改訂版について、全体構成および改訂のポイントを各章の担当者が説明を行うとともに、最終処分場にかかわる行政および民間事業者に活用してもらうための呼びかけを行う。

プログラム
1.『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』改訂版について
2. 各章担当者による改訂内容の説明
3. 総合討論(質疑および改訂版の今後の活用方法のあり方)